

竹原ロータリークラブの主催により、キャリア教育の第一人者である渡辺三枝子先生（ソシエツス理事）が広島県立高校で、高校生に向けたキャリアに関する講演をされました。

## 1. 6月19日（月）広島県立豊田高校

卒業後半数の生徒が就職を希望する高校で、「将来役立つ 豊田高校での学びと生活」と題して講演会が行なわれました。

はじめに渡辺先生は生徒達に向けて、「高校を卒業した後は自分の責任で生きていく人生が始まり、豊田高校での日々の経験から学んだことが社会人として活かされていきます。だから、豊田高校で過ごす15歳から18歳の今しかない時間を大切にしてください」と語りかけました。そして、高校生活での日々の経験や想像もしなかった思わぬ経験をメモし、文字にするクセをつけることの大切さを伝えました。そのメモを見返すことにより、「自分にどのような変化があったのかを振り返ることができ」、さらに、「その変化について考えられるようになる」と述べられました。最後に、渡辺先生は、「高校生活は楽しいことばかりではなく嫌なこともあります。しかし、自分の考え方・捉え方次第で嫌なことからも色々なことを学ぶことができます。高校生活では、あなたらしいもの、それはあなたの宝物となりますが、それを発見してみましよう」と熱いメッセージを送られました。



## 2. 6月20日（火）広島県立忠海高校



1年生の「総合的な学習の時間」を使って、渡辺先生の講演会が行なわれました。

1年生は、忠海地域で生活する様々な職業の方に対して「自分自身の生き方、この町に対する想い、これからの期待」というテーマでインタビューを行い、その結果を数ヶ月かけてまとめる作業を行うことになっています。そのカリキュラムが始まる直前ということもあり、生徒のみなさんは熱心に渡辺先生のお話を聞いていました。

その1年生たちに向けて、渡辺先生は「学校の授業で、地域で働く方々に会い、その方々の考えを聞くという機会があると伺いました。新しいことに挑戦すると、新たな見方・様々な考え方があることに気が付くことができます。しかし、それに気がつくことができるかどうか「自分次第」なのです」と語りかけました。

渡辺先生は、インタビューを行う際のポイントについてもアドバイスをされました。

- “意欲”を持つこと  
相手から何を引き出そうか、何を聞こうかと考える“意欲”を持つ
- “興味”を持つこと  
たとえ、関心を持っていなかったことでも、自分が興味を覚えたことを糸口になんかを探し出す

最後に、「人と会って直接話す、そうして人を通して情報を得る意味を考えていきましょう。そして、いつも自分と対話して、未経験のことを経験してそこから何を学んだのかを明確にしていけるようになりましょう」と生徒達に激励のメッセージを送られました。

### 3. 6月20日（火）広島県立竹原高校

「社会人として働くこと・生きること ～高校生としていまやるべきこと～」と題して、全校生徒280名に向けての講演会が行われました。

1学年に普通科3クラスと商業科が1クラスある竹原高校では、卒業後は約25%の生徒が就職をします。渡辺先生は、「高校生活は、将来社会に出ていくために多様な意見に触れる大切な準備の期間」と述べられた上で、「自分とは違う考えの人と話ができるようになりましょう。意見が違って相手も尊重して、話し合う姿勢を身につけましょう」と生徒達にメッセージを送られました。



講演会後の生徒達の感想文では、次のような意見が多くありました。

- 分からないことは勇気をもって聞き、また、違った意見を持った人と話をして、理解しようとする大切さを学んだ
- 様々な角度から物事を考えることで、変化に適応し、受け入れることができると感じた
- 異なる経験を持つ人をバカにせず、他人の意見にすぐに流されないように、幅広く物事を考えることができる人間になることが大切だと思った

高校卒業後に就職する人も、進学する人も、みなさん様々な道を歩むこととなります。今回の渡辺先生のお話から何か一つでもヒントを得てくれれば大変嬉しいと思います。

以上